

26年10月分 素材生産業者の活動・先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成26年 9月20日～ 26年10月10日

2. 調査実施方法

全国の素材生産業者に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
10月分の回答企業数は10社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

素材生産動向

品目		26/10月	11月	12月
伐採動向	スギ	0.0	5.6	△ 6.3
	ヒノキ	△ 14.3	△ 14.3	△ 33.3
	カラマツ	△ 37.5	△ 37.5	△ 37.5
	エゾ・トド	0.0	0.0	0.0
出荷・販売動向	スギ	△ 5.6	5.6	△ 6.3
	ヒノキ	△ 33.3	△ 16.7	△ 40.0
	カラマツ	△ 50.0	△ 66.7	△ 66.7
	エゾ・トド	0.0	0.0	0.0
手持立木在庫動向	スギ	△ 28.6	△ 28.6	△ 28.6
	ヒノキ	△ 37.5	△ 37.5	△ 37.5
	カラマツ	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0
	エゾ・トド	50.0	0.0	0.0

・スギの伐採は10月の横ばいが、11月には増加するが12月には減少へ。ヒノキ及びカラマツは3ヶ月連続の減少に、エゾ・トドは3ヶ月連続して横ばい。

・スギの出荷・販売は10月の減少が、11月には増加するが12月には再び減少に、ヒノキ及びカラマツは3ヶ月連続の減少に、エゾ・トドは3ヶ月連続して横ばい。

・手持立木在庫は、スギ、ヒノキ及びカラマツは3ヶ月連続して減少に、エゾ・トドは10月の増加の後11月、12月は横ばいに。

モニターからのコメント

(伐採動向)

- ・国有林のトドマツ間伐の素材請負で通常量の伐採中。
- ・スギ・カラマツともほぼ横ばい。
- ・スギ、ヒノキの国有林分収育林箇所の立木購入。

(出材・販売動向)

- ・トドマツは運材車不足のため丸太在庫の少ない工場がある、合板用材は過剰在庫で受入制限と単価値下げが求められている。
- ・出材は動き鈍い。
- ・ヒノキの価格が下がったため委託林の間伐作業へシフト。

(手持ち立木在庫)

- ・手持ち立木在庫あり、良い物件のみ落札する。
- ・立木の買い入れはひかえ目。